

令和4 年度第4 回ヨコハマe アンケート

地震火災に強いまちづくりに関するアンケート

実施期間 令和4年5月27日（金）から6月10日（金）
 事業所管課 都市整備局 防災まちづくり推進課

回答者数 1,539人（回答率：36.1%）
 【参考】eアンケートメンバー数 4,262人（5月27日時点）

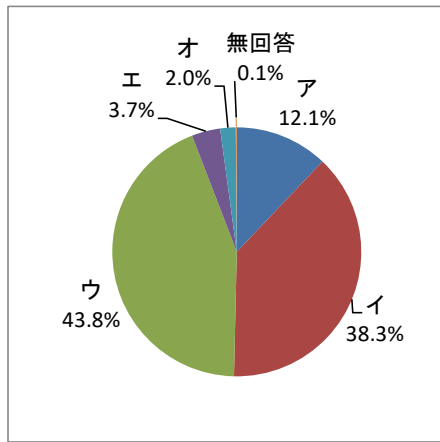
年代別、横浜市内在住・在勤・在学別の回答者構成比

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
横浜市内在住	1 (0.1%)	18 (1.2%)	106 (6.9%)	274 (17.8%)	436 (28.3%)	372 (24.2%)	314 (20.4%)	1,521 (98.8%)
横浜市内在勤	0 (0.0%)	0 (0.0%)	2 (0.1%)	4 (0.3%)	5 (0.3%)	3 (0.2%)	1 (0.1%)	15 (1.0%)
横浜市内在学	1 (0.1%)	2 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3 (0.2%)
計	2 (0.1%)	20 (1.3%)	108 (7.0%)	278 (18.1%)	441 (28.7%)	375 (24.4%)	315 (20.5%)	1,539 (100.0%)

Q1 あなたの世帯構成について教えてください。 （単一選択）

n = 1,539

ア	一人暮らし(回答者のみ)	12.1%	186
イ	配偶者・パートナーとの二人暮らし	38.3%	589
ウ	親と子(2世代)	43.8%	674
エ	祖父母と親と子(3世代)	3.7%	57
オ	その他	2.0%	31
無回答		0.1%	2
		100.0%	1,539

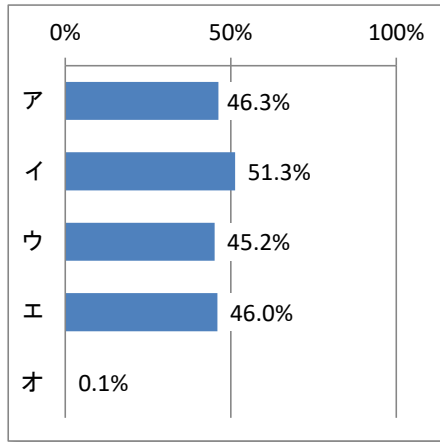


その他(抜粋)
 4世代+兄弟

Q2 次のうち、あなたの居住形態や居住年数について当てはまるものを選択してください。
 ※「オ 当てはまるものはない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。
 (複数選択可)

n = 1,539

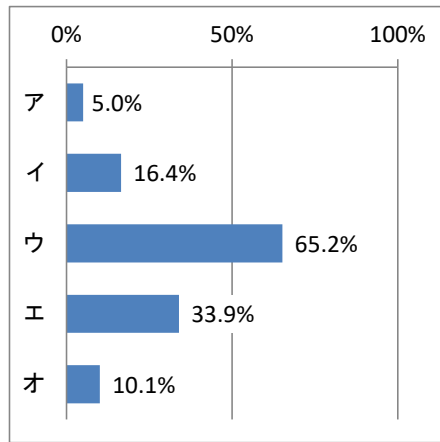
ア	戸建て住宅に住んでいる	46.3%	712
イ	集合住宅に住んでいる	51.3%	790
ウ	いまの場所に10年以上住んでいる	45.2%	695
エ	持ち家である	46.0%	708
オ	当てはまるものはない	0.1%	2



Q3 次のうち、あなたの地域との関わりについて当てはまるものを選択してください。
 ※「オ 当てはまるものはない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。
 (複数選択可)

n = 1,539

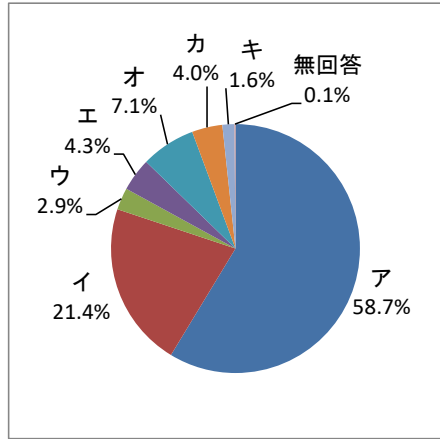
ア	PTAの活動をしている	5.0%	77
イ	地域のクラブやサークルに所属している	16.4%	253
ウ	自治会に加入している	65.2%	1,003
エ	近隣の人と話すことはあまりない	33.9%	522
オ	当てはまるものはない	10.1%	155



Q4 あなたにとって、災害の中で身近に起こりうるものとして最も危機感を感じているものを選択してください。
(単一選択)

n = 1,539

ア	地震の揺れによる建物の被害	58.7%	903
イ	地震による火災延焼の被害(地震火災)	21.4%	330
ウ	津波による被害	2.9%	44
エ	豪雨による浸水・堤防の決壊による被害	4.3%	66
オ	がけ崩れ・地割れによる被害	7.1%	109
カ	危機感はない	4.0%	61
キ	その他	1.6%	24
無回答		0.1%	2
		100.0%	1,539



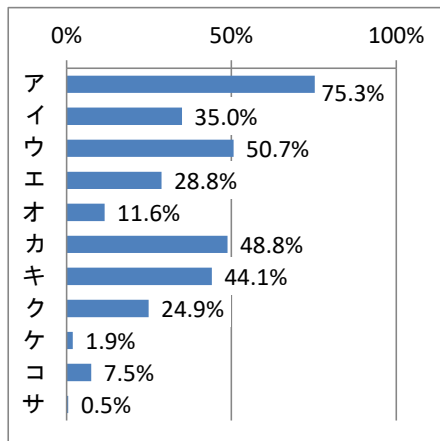
その他(抜粋)

インフラ・ライフラインの被害
台風などの風害
人口の多い横浜市で避難生活ができるのか
地域やその他のコミュニティからの孤立

Q5 ご家庭で日頃の防災行動として実施していること(実施した)を教えてください。
(* 感震ブレーカー:地震の大きな揺れを感知して電気を自動的に遮断し、電気火災を防ぐ器具。電気が漏れた際に遮断する「漏電ブレーカー(漏電遮断器)」とは別の器具です。
※「コ 特に何もしていない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。
(複数選択可)

n = 1,539

ア	飲料・食料などの備蓄や非常用持ち出しバッグの準備 (Q7へ)	75.3%	1,159
イ	災害時の家族との安否確認方法の共有 (Q7へ)	35.0%	539
ウ	自宅周辺の災害リスクや避難場所・避難経路の確認 (Q7へ)	50.7%	780
エ	自宅の耐震性や耐火性の確認 (Q7へ)	28.8%	443
オ	感震ブレーカーの設置 (Q7へ)	11.6%	178
カ	家具の転倒防止や落下防止対策 (Q7へ)	48.8%	751
キ	スマートフォンへの防災アプリのインストール (Q7へ)	44.1%	678
ク	地域の防災訓練や消火訓練への参加 (Q7へ)	24.9%	383
ケ	マイ・タイムラインの作成 (Q7へ)	1.9%	29
コ	特に何もしていない (Q6へ)	7.5%	115
サ	その他 (Q7へ)	0.5%	8



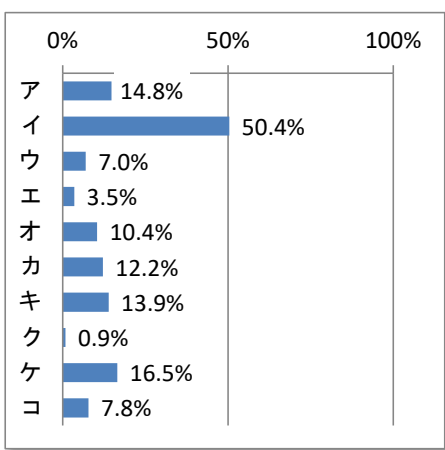
その他(抜粋)

横浜市民防災センターに定期的にお邪魔して、防災について子どもに考えさせています。大人も非常に勉強になります。
水の備蓄

Q6 Q5で「コ 特に何もしていない」と回答された方にお聞きします。特に何もしていない理由について教えてください。(複数選択可)

n = 115

ア	災害の危険性を特に感じないから	14.8%	17
イ	危険性があるのはわかっているが具体的にどうしていいかわからないから	50.4%	58
ウ	自分だけ対策しても近隣が対策しなければ意味がないから	7.0%	8
エ	災害が起きたら行政がなんとかしてくれると思うから	3.5%	4
オ	災害が起きても逃げられると思うから	10.4%	12
カ	対策したいがお金がないから	12.2%	14
キ	持ち家ではないから	13.9%	16
ク	いずれ解体・売却しようと思っているから	0.9%	1
ケ	面倒だから	16.5%	19
コ	その他	7.8%	9

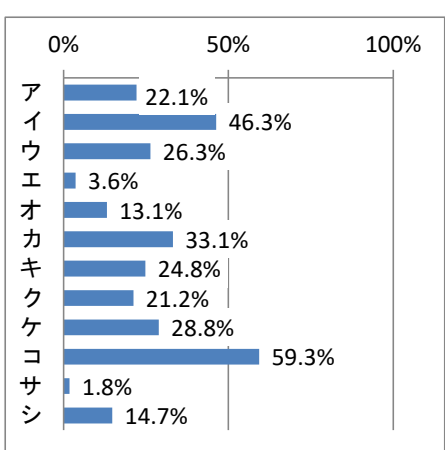


その他(抜粋)
 水や食料を備蓄していることもあるが、長年何もなく、保存期限が切れたときに新しい物に換えるのが億劫で備蓄が続かない。
 意識はしているが時間がない
 実家が近くにあるため、あまり対策できていない。また、備蓄系の対策に関しては自宅にスペースがないため、ストックができていない。

Q7 全員にお聞きします。日頃ご家庭において、様々な防災行動を「やってみよう」「継続しよう」と思う気持ち(過去にそう思った経験でもかまいません。)につながるものを選択してください。(複数選択可)

n = 1,539

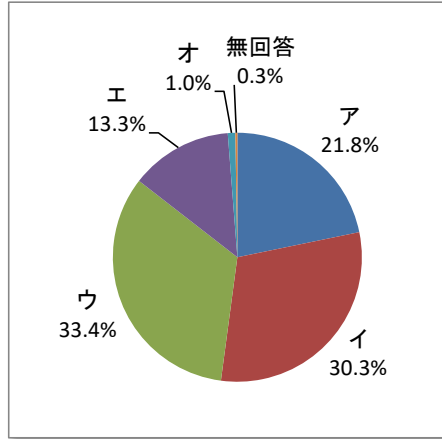
ア	横浜市の地震被害想定では死者数は最大で約3,000人になる	22.1%	340
イ	防災に関する記事やSNSで防災に関する投稿や広告を見る	46.3%	712
ウ	防災をしていないことで災害時にさまざまな人に迷惑をかけてしまう	26.3%	405
エ	「防災をしっかりしていて素晴らしいね」と褒められる	3.6%	56
オ	家族や友人から日頃の防災をしっかりしておくように勧められる	13.1%	202
カ	災害のとき必ずしも避難所に入れるわけではないなどの被災時の体験談を聞く	33.1%	510
キ	職場や学校での避難訓練や防災の講座・授業に参加する	24.8%	382
ク	古い建物にいるとき震度3~4程度の地震が発生し恐怖を感じる	21.2%	326
ケ	家の近くに災害の危険度が高いエリアがあることを知る	28.8%	444
コ	食品や日用品の日頃の買い置きが災害時にも役立つことを知る	59.3%	913
サ	買い物に出かけたとき売り場で防災用品の特設コーナーを見かける	1.8%	27
シ	家具固定や非常用持ち出しバッグを準備している人が自分の周りに多い	14.7%	227



Q8 ご自宅の周辺は、木造住宅が密集している・道が狭いなど、地震が起きた時に危険だと思いますか。
(単一選択)

n = 1,539

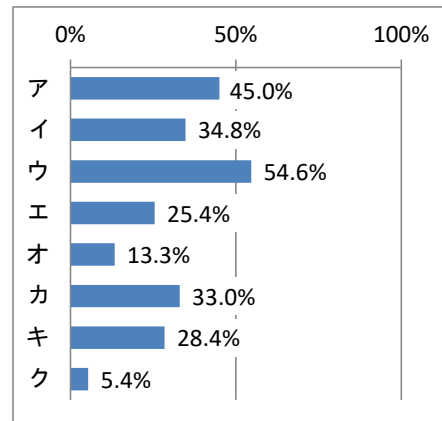
ア	そう思う (Q9へ)	21.8%	335
イ	少しそう思う (Q9へ)	30.3%	467
ウ	あまりそう思わない (Q10へ)	33.4%	514
エ	思わない (Q10へ)	13.3%	204
オ	分からない (Q10へ)	1.0%	15
無回答		0.3%	4
		100.0%	1,539



Q9 Q8で「ア そう思う」、「イ 少しそう思う」と回答された方にお聞きします。大地震が発生したら、どのような危険性があると思いますか。
(複数選択可)

n = 802

ア	自宅が倒壊してしまう	45.0%	361
イ	自宅から出火して自宅が燃えてしまう	34.8%	279
ウ	隣の家の火災が飛び火して自宅が燃えてしまう	54.6%	438
エ	安全に逃げられる道路がない	25.4%	204
オ	安全に避難できる場所(公園・広場・学校など)が近くにない	13.3%	107
カ	消防車や救急車が通行できる広い道路に面していない	33.0%	265
キ	道路沿いの建物が倒壊し安全に避難できない	28.4%	228
ク	その他	5.4%	43



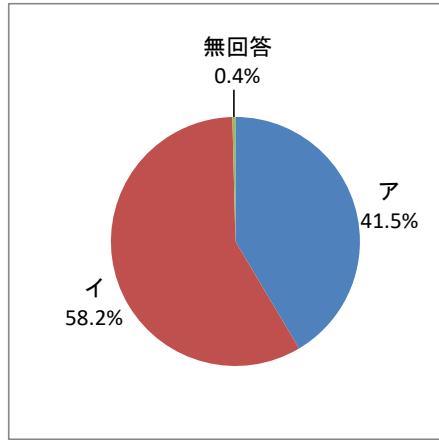
その他(抜粋)

近くの崖が崩れる危険性がある
坂道が多く、高齢者も多いエリアなので、隣近所の方々を安全に避難できるかどうか不安
道路が液状化して車が通れなかったり建物が傾いてしまう

Q10 全員にお聞きします。
 平成24年に公表した横浜市の地震被害想定では、大規模地震の際、木造密集市街地を中心に同時多発的に火災が発生して、大規模な延焼被害が発生する恐れがあるとされています。
 あなたはこの地震被害想定を知っていましたか。
 (単一選択)

n = 1,539

ア	知っていた	41.5%	638
イ	知らない	58.2%	895
無回答		0.4%	6
		100.0%	1,539



Q11 大規模地震の際、木造密集市街地を中心に同時多発的に火災が発生して、大規模な延焼被害が発生する恐れがある被害想定に基づいて、延焼被害が大きなエリアを「重点対策地域」と「対策地域」に指定し、重点的に地震火災の被害を減らすための取組を行っていますが、あなたは下記ウェブサイトに記載の重点対策地域・対策地域のいずれかにお住まいですか。

【重点対策地域・対策地域の町丁目リストについては、下記ウェブサイトからご確認ください。】

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/bosai/jishinkasai/taishyoarea.html#47C56>

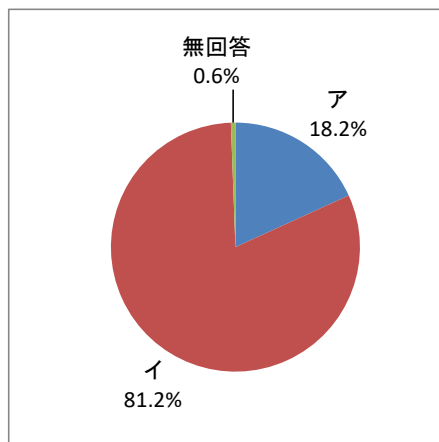
【重点対策地域・対策地域の大まかな範囲図(緑とオレンジ色の部分)】

https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/toshiseibi/bosai/jishinkasai/taishyoarea.images/0013_20210909.jpg

(単一選択)

n = 1,539

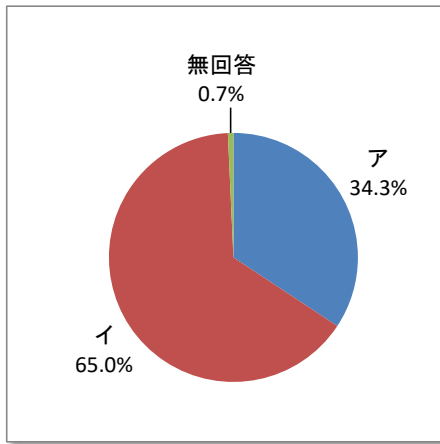
ア	住んでいる (Q12へ)	18.2%	280
イ	住んでいない (Q13へ)	81.2%	1,250
無回答		0.6%	9
		100.0%	1,539



Q12 Q11で「ア 住んでいる」と回答された方にお聞きします。
 あなたのお住まいが、延焼被害が大きなエリアである「重点対策地域」や「対策地域」に指定されていることを知っていましたか。
 (単一選択)

n = 280

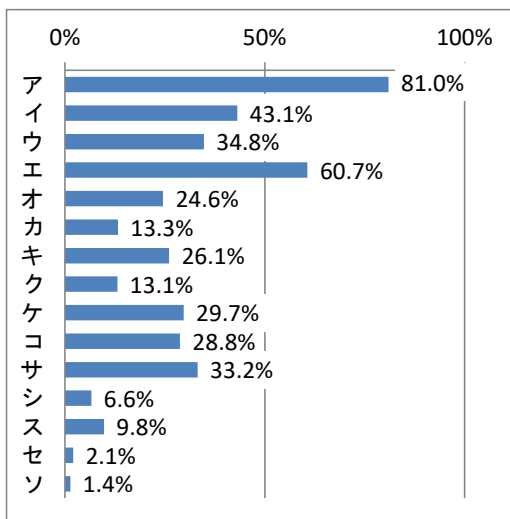
ア	知っていた	34.3%	96
イ	知らない	65.0%	182
無回答		0.7%	2
		100.0%	280



Q13 全員にお聞きします。
 あなたが日頃、防災関連情報を入手しているメディアを選択してください。
 ※「セ 特にない」を選択した方は、他の回答を選択しないでください。
 (複数選択可)

n = 1,539

ア	テレビ・ラジオ	81.0%	1,246
イ	新聞・雑誌	43.1%	664
ウ	地域のタウン紙・誌	34.8%	535
エ	行政機関の広報紙・誌(広報よこはまなど)	60.7%	934
オ	行政機関のウェブサイト	24.6%	378
カ	行政機関以外のウェブサイト	13.3%	204
キ	行政機関が発信するSNS(LINE・ツイッター・フェイスブック・インスタグラムなど)	26.1%	401
ク	行政機関以外が発信するSNS	13.1%	202
ケ	行政機関のチラシや防災マップ	29.7%	457
コ	防災アプリ	28.8%	443
サ	町内の回覧板や掲示板	33.2%	511
シ	地域の人からの口コミ	6.6%	102
ス	店舗の防災コーナーやポスター	9.8%	151
セ	特にない	2.1%	32
ソ	その他	1.4%	21



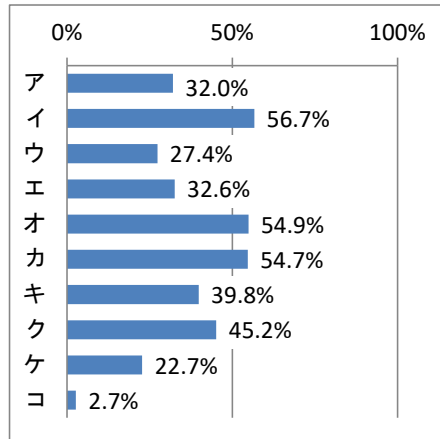
その他(抜粋)

アウトドアやサバイバルマニュアル等の書籍
消防団員
防災組織があり、情報の共有や訓練等を実施している。

**Q14 横浜市の地震火災対策に今後期待することを教えてください。
(複数選択可)**

n = 1,539

ア	地域のお祭りやまち歩きといった楽しいイベントの中で地震火災対策と一緒に学べる防災教育の促進	32.0%	493
イ	地震火災のリスクが高いエリアに関する情報の公表	56.7%	872
ウ	古い建物の解体・建替えを進めるための法律相談や技術的な相談などの支援	27.4%	421
エ	古い建物の解体や耐火性の高い建物の新築に関する金銭的なサポート	32.6%	501
オ	管理されていない空き家の解体の促進	54.9%	845
カ	避難場所としての広場や公園の整備	54.7%	842
キ	道路・避難通路の整備や拡幅や行き止まり通路の解消	39.8%	613
ク	発災後に備えるための地域の防災倉庫・かまどベンチ・防災井戸などの設置促進	45.2%	695
ケ	地域での消火訓練の支援	22.7%	350
コ	その他	2.7%	41



その他(抜粋)

市と町内会の連携強化を期待します。具体的には、地域での危険箇所(ブロック塀の倒壊、崖崩れなど)のリストアップと情報共有(広報、町内会回覧板など)です。地域住民の目でチェックすることで防災意識も高まると思います。

自治会に加入していない世帯へ「広報よこはま」等を配布し、広報紙を通じて防災に関する情報を全戸に周知してほしい。

地域防災に関わる人の支援や経済的な支援

**Q15 多くの人にとって防災が身近に感じにくい中で、一人ひとりが地震火災対策に関する取組を少しでも始めるために、どんなことがきっかけになると思いますか。ご意見があれば自由にご記入ください。
(自由意見)**

(抜粋)

かつて感震ブレーカー設置の補助を受けたのですが、そのことと地震火災の危険性のある地域に住んでいることが自分の中で結びついてなかったことに気づきました。まずは、住んでいるまたは長時間滞在する場所が危険性のある地域であるかどうかを知ることが一番だと思いました。

町内会に入る機会がないため、地域での防災訓練ですら、どのように実施されているかわかりません。こういった人たちがかなり増えてきていると思うので、ここを掘り起こしてほしいです。

防災に関する講演会や講習会を一律に開催するのではなく、小さいお子さんのいる家庭向け、介護が必要な家族がいる家庭向け、ペットを飼っている人向けなどカテゴリー別に分けて、関心を持ってもらえる工夫をするのはどうでしょうか。小さい単位で、ケアプラザくらいの規模で開催すると、大きな会場に出向けない人も参加しやすくなるのではないかと思います。

子どもたちへの防災知識とそれを家族へ伝えることの重要性を説明しておくこと。

私は阪神淡路大震災の被災者です。都市型地震ならではの恐怖を味わい、親戚や知人に死者が出ました。持ち家は建て替えを要する半壊で、建て替え後は借家になっています。神戸より山坂の多い横浜市は、阪神淡路大震災の映像や復興の経緯を今一度見聞きするなど、実感することが必要ではないかと思います。

自宅付近の被害をシュミレーションできるもので体験する。地域密着型の防災をみんなで考えるイベントを企画したり参加を呼び掛けしてみる。

「重点対策地域・対策地域の町丁目リスト」と「重点対策地域・対策地域の大きな範囲図」ともに初めて見ました。勤務地がこの範囲内にあるので、もっと早く知りたかったです。

地域によるコミュニティの促進。

防災訓練はとても大切なことだと思うけれど、いきなり消火訓練の実施があつたりして、ちょっと敷居が高かつたりする。実際に訓練しなければいざというときに役にたないのは分かっているけれど、防災グッズの展示や経験者の声(冊子)などに触れる機会が身近にいつもあると意識が高くなり、訓練に参加してみようという気持ちも強くなるような気がする。